

学内の国際的環境の整備（施設整備）

グローバル・エンゲージメントセンター
旧 国際教育交流センターアドバイジング部門

田 中 京 子

2020年度からのコロナ禍により、それまでインターナショナルレジデンス東山において継続的に行っていた「NUFSA 家族のための日本語コース」やボランティアによるコース内託児、またムスリム学生の金曜集会等の活動が、対面で実施できない時期が多くなった。当レジデンスは建築後すでに40年近く経ち老朽化も進み、交流活動にはより適切な環境が望まれていたところであったため、いずれ再開されるであろう対面活動に備えて、会議室や和室、洗面所を整理・改修し、必要な備品を設置し、国際環境を整備する企画を立て、約1年かけて順次実施した。

具体的には、和室や水屋の整理整頓・畳と障子替え・入口修繕、会議室でのWifi利用のための機器整備・窓への網戸設置・感染対策のための空気清浄機やパーティションの設置、会議室近くに低い位置の洗い場設置（当初は洗面所内に設置することを考えていたが、

洗面所の形状により、建物裏出入口付近に設置した）などを、アドバイジング部門スタッフが中心となって企画し、施設課宿舍管理係や関係ボランティアグループ等の協力によって実施した。メールや電話で関係者や関係グループと連絡をとりながら、予算内で可能な限りの環境整備を行うことができた。

2021年度はコロナ禍のためイベント等はほとんど開催できなかったが、イスラム文化会の金曜集会は大学の活動基準に沿って行える期間もあったため、低い位置の洗い場や会議室の網戸、空気清浄機はすでに有効利用されている。今後対面活動が全面的に可能になった際には、「NUFSA 留学生の家族のための日本語コース」、当コースでのボランティアによる託児、日本文化講座などをよりよい環境で行うことができる。学内の国際環境が一步前進したと言える。



インターナショナルレジデンス東山の地下出入口外に設置した洗い場